

消防水利整備事業

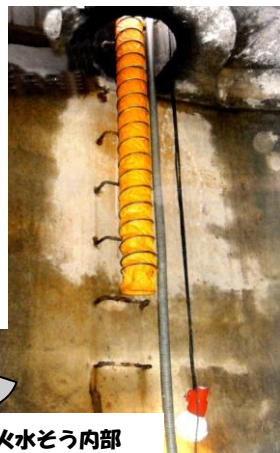
事業の必要性

兵庫県南部地震においては、地震の発生により同時火災が多発して消防水利体制に重大な問題を提起されたことから、災害予防対策として消防水利を十分確保しておくことが重要である。

このことから消火栓以外の水利、とりわけ耐震性を有する防火水そうを緊急に整備することが初期消火体制を整備するうえで必要不可欠であり、その解消に向け管内の火災危険度の高い市街化区域における消防水利の充実整備をさらに図る必要がある。



補強工事後の防火水そう内部



補強工事前の防火水そう内部

現状と課題

消防水利については、宅地開発による都市構造の変化等により池等の自然水利が減少しており、その約9割近くを消火栓が占めているのが現状である。

このような中、大規模地震災害等の影響を受けにくい、耐震性を有する防火水そうの整備を推進し災害時における有効水利を確保することが喫緊の課題である。

また、設置後50年以上経過し老朽化している防火水そうに耐震性を持たせ地震時にも有効に使用できるように補強工事を行う必要がある。

今後の取り組み

火災危険の高い市街地において、大規模地震災害等の発生時には水道の断水等により消火栓が使えなくなすることを想定し、自然水利等水源が確保できない地域に、重点的に防火水そうの整備を図るとともに、老朽化した防火水そうを耐震補強し、早期に災害時における有効水利を確保できるようにすることにより、安全なまちづくりを目指す。

